生ける銃架

――満洲駐屯軍兵卒に――

槇村浩

青空文庫

目次

道のべの春　3

不二大観　41

海阪　60

高粱の畠を分けて銃架の影はけふも続いて行く
銃架よ、お前はおれの心臓に異様な戦慄を与へる——血のやうな夕日を浴びてお前が黙々と進むとき
お前の影は人間の形を失ひ、お前の姿は背嚢に隠れ
お前は思想を持たぬゞ一箇の生ける銃架だ
きのふもけふもおれは進んで行く銃架を見た
列の先頭に立つ日章旗、揚々として肥馬に跨る将軍たち、色蒼ざめ疲れ果てた兵士の群—
おゝこの集団が姿を現はすところ、中国と日本の圧制者が手を握り、
犠牲の××（1）は二十二省の土を染めた
（だが経験は中国の民衆を教へた！）
見よ、愚劣な×（2）旗に対して拳を振る子供らを、顔をそむけて
罵る女たちを、無言のまゝ反抗の視線を列に灼きつける男たちを！
列はいま奉天の城門をくゞる
——聞け、資本家と利権屋の一隊のあげる歓呼の声を、軍楽隊の吹奏する勝利の由を！
やつら、資本家と将軍は確かに勝った！——だがおれたち、どん底に喘ぐ労働者農民にとつてそれが何の勝利であらう
おれたちの唇は歓呼の声を叫ぶにはあまりに干乾びてゐる
おれたちの胸は凱歌を挙げるには苦し過ぎる
やつらが勝たうと負けようと、中国と日本の兄弟の上に×（3）
圧の鞭は層一層高く鳴り
暴×（4）の軋は更に烈しく喰ひ入るのだ！

おれは思ひ出す、銃剣の冷く光る夜の街に
反×（5）の伝単を貼り廻して行つた労働者を
招牌の蔭に身を潜め
軒下を忍び塀を攀ち
大胆に敵の目を掠めてその男は作業を続けた
彼が最後の一枚に取り掛つた時
歩哨の鋭い叫びが彼の耳を衝いた
彼は大急ぎでビラを貼り
素早く横手の小路に身を躍らせた
その時彼は背後に迫る靴音を聞き
ゆくてに燦めく銃剣を見た
彼は地上に倒れ、次々に×（6）き×（7）される銃×（8）の下に、潮の退くやうに全身から脱けて行く力を感じ
おとろへた眼を歩哨の掲げた燈に投げ
裂き捨てられた泥に吸はれた伝単を見詰め
手をかすかに挙げ、唇を慄はし
失はれゆく感覚と懸命に闘ひながら、死に至るまで、守り通した党の名をとぎれ〳〵に呼んだ
……中、国、共、×（9）、×（10）、萬……
——秋。奉天の街上で銃架はひとりの同志を奪ひ去つた
しかし次の日の暮れ方、おれは帰りゆく労働者のすべての拳しの中に握り占められたビラの端を見た電柱の前に、倉庫の横に、風にはためく伝単を見た、同志よ安んぜよ、君が死を以て貼り付けた

ビラの跡はまだ生々しい。
残された同志はその上へ次々に伝単を貼り廻すであらう
白樺と赤楊の重なり合ふ森の茂みに銃架の影はけふも続いて行く
お前の歴史は流×（11）に彩られて来た
かつて亀戸の森に隅田の岸に、また朝鮮に台湾に満州に
お前は同志の咽を×（12）き胸を×（13）り
堆い死屍の上を×（14）に酔ひ痴れて突き進んだ
生ける銃架。おう家を離れて野に結ぶ眠りの裡に、風は故郷のたよりをお前に伝へないのか
愛するお前の父、お前の母、お前の妻、お前の子、そして多くのお前の兄妹たちが、土地を逐はれ職場を拒まれ、飢えにやつれ、歯を喰い縛り、拳を握って、遠く北の空に投げる憎しみの眼は、
かすかにもお前の夢に通はぬのか
裂き捨てられる立禁の札。馘首に対する大衆抗議。全市を揺がすゼネストの叫び。雪崩れを打つ反×（15）のデモ。吹きまく弾×（16）の嵐の中に生命を賭して闘ふお前たちおれたちの前衛、あゝ
××××（17）！
――それもお前の眼には映らぬのか！
生ける銃架。お前が目的を知らず理由を問はず
お前と同じ他の国の生ける銃架を射×（18）し
お前が死を以て衛らねばならぬ前衛の胸に、お前の銃剣を突き刺す
時
背後にひゞく萬国資本家の哄笑がお前の耳を打たないのか
突如鉛色の地平に鈍い音響が炸裂する
砂は崩れ、影は歪み、銃架は×（19）を噴いて地上に倒れる
今ひとりの「忠良な臣民」が、こゝに愚劣な生涯を終えた
だがおれは期待する、他の多くのお前の仲間は、やがて銃を×（20）に×（21）ひ、剣を後に×（22）へ
自らの解放に正しい途を撰び、生ける銃架たる事を止めるであらう
起て満州の農民労働者
お前の怒りを蒙古の嵐に鍛え、鞍山の溶鉱炉に溶かし込め！
おう迫りくる××（23）の怒涛！
遠くアムールの岸を噛む波の響きは、興安嶺を越え、松花江を渡り、哈爾賓の寺院を揺すり、間島の村々に伝はり、あまねく遼寧の公司を揺るがし、日本駐屯軍の陣営に迫る
おう、国境を越えて腕を結び×（24）の防塞を築くその日はいつ。

――一九三一・一〇・二四――

「大衆の友」創刊号（昭和七年二月五日発行）

（1）鮮血　（2）軍　（3）弾　（4）虐　（5）日　（6）突
（7）刺　（8）剣　（9）産　（10）党　（11）血　（12）突
（13）抉　（14）血　（15）戦　（16）圧　（17）日本共産党
（18）殺　（19）血　（20）後　（21）狙　（22）構　（23）革命
（24）鉄

青空文庫情報

底本：「槇村浩詩集」平和資料館・草の家、飛鳥出版室
2003（平成15）年3月15日
初出：「大衆の友　創刊号」
1932（昭和7）年2月5日
※「満洲」と「満州」の混在は、底本通りです。
※底本は新字旧仮名づかいです。なお拗音、促音の小書きは、底本通りです。
※本文末の注記は、編者による伏せ字の復元です。
入力：坂本真一
校正：雪森
2015年4月8日作成
2015年6月21日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

生ける銃架

――満洲駐屯軍兵卒に――

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　槇村浩
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/